



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support Foundation

ISSUE 30, August 2020

Newsletter

平成 31 (令和元) 年度事業報告・収支決算

平成 31 (令和元) 年度事業報告及び同年度収支決算については、新型コロナウイルス感染の状況下、理事会及び評議員会審議をそれぞれ書面で行い、理事会は7月6日に、評議員会は7月10日に、それぞれ原案どおり議決、承認しました。その概要は以下のとおりです。

平成 31 (令和元) 年度事業報告

1 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発

(1) 『学術の動向』の発行

日本学術会議の編集協力を得て、総合学術情報誌『学術の動向』を刊行した。同誌には、国内外の学術の動向を特集するほか、日本学術会議の活動状況等を紹介し、広く大学、研究機関、学協会、一般に周知した。

(2) 『学術会議叢書』の発行

学術及びその成果を広く一般に普及するため、日本学術会議が主催した公開講演会の記録を基に関連資料及び解説を加えて編集した学術会議叢書を刊行しており、令和元年度は、次の1冊を刊行した。

・学術会議叢書 26 『社会脳から心を探る —自己と他者をつなぐ社会
適応の脳内メカニズム—』

学術会議叢書 26 は、公益財団法人一ツ橋総合財団からの助成を受けて、全国約1,500か所の国公立図書館・大学等に寄贈するとともに、賛助会員たる学術団体等に無償配布した。

2 学術連携推進事業

(1) 科学者連携事業

日本学術会議の主催の講演会、シンポジウム等の事業について、学術普及・啓発事業の一環として協力した。

(2) 学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

—データベース『学会名鑑』Web版

我が国学協会に関する包括的なデータベースである『学会名鑑』Web版について、一層の利・活用を図るため、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び日本学術会議と連携・協力し、収録学協会の拡大及び収録データ事項の充実を行った。

3 学術関係団体事務支援事業

日本学術会議同友会、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー、硬組織再生生物学会等、学術関係団体からの要請を受けて、各団体活動に係る事務の支援を行った。

this issue

平成 31 年度事業報告・収支決算
賛助会員の状況
データベース学会名鑑について
学術関係団体事務支援事業
新型コロナウイルス感染症に対する
日本学術会議の対応について
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄付金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人
日本学術協力財団
〒107-0052
東京都港区赤坂 4-9-3
TEL 03-3403-9788
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>

2020年8月1日発行

平成31（令和元）年度収支決算

平成31（令和元）年度決算の要点は、以下のとおりです。

平成31（令和元）年度正味財産増減計算書

（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

（単位：千円）

科 目	決算額
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	324
受取会費	15,239
事業収益	7,244
受取補助金等	1,500
受取寄付金振替額	9,807
雑収益	40
経常収益計	34,154
(2) 経常費用	
事業費	26,980
管理費	7,115
経常費用計	34,095
当期経常増減額	59
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	59
一般正味財産期首残高	8,085
一般正味財産期末残高	8,144
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	108,500
一般正味財産への振替額	△9,807
当期指定正味財産増減額	98,693
指定正味財産期首残高	43,655
指定正味財産期末残高	142,348
III 正味財産期末残高	150,492

賛助会員の状況

当財団の令和2年3月31日現在の賛助会員数は、次のとおりです。（単位：人・法人）

	区分	個人	学術団体	企業等	合計
30年度	入会	90	2	0	92
	退会（逝去含）	79	2	0	81
	年度末現在	1,105	128	1	1,234
元年度	入会	8	4	1	13
	退会（逝去含）	75	1	0	76
	年度末現在	1,038	131	2	1,171

賛助会員の皆様方にはいつもご支援いただき、誠にありがとうございます。

データベース学会名鑑のデータ更新について

データベース学会名鑑については、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構、公益財団法人日本学術協力財団の協力の下、ウェブサイトのデータを更新いたしました。

現在、学会名鑑に掲載しておりますデータは、日本学術会議が令和元年度に「協力学術研究団体」を対象に行いました実態調査を基としております。

各学術団体の関係者の皆様におかれましては、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、引き続き、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、令和2年度調査は、本年10月に予定しております。

URL：<https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/>



学術関係団体事務支援事業

【日本生命科学アカデミー】

4月15日に理事会及び総会が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況のため延期しました。

【日本学術会議同友会】

4月16日に総会及び懇親会が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況のため延期しました。

新型コロナウイルス感染症に対する日本学術会議の対応について

現在、世界中において新型コロナウイルス感染症が流行しております。

皆様方におかれましても、お気をつけいただきますようお願い申し上げます。

日本学術会議では、下記の対応が行われていますのでご紹介いたします。

- 1) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などに関する特設ホームページが開設されています。

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/2bu/covid19.html>

- 2) 「コロナ後」の世界の未来を考えわかり易くご紹介する対談「新型コロナウイルス後の世界」の対談映像が順次公開されています。

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/tenbou2020/after-corona.html>

(2020年7月22日現在。詳細な肩書は日本学術会議ホームページをご覧ください。)

対談主催者	対談者		テーマ
山極壽一会長	平田オリザ先生	四国学院大学社会学部教授・学長特別補佐	芸術活動・芸術教育
	Monte Cassim 先生	日本学術会議外国人アドバイザー	国際連携
	梶 光一先生	東京農工大学名誉教授	野生動物の管理
	澁澤 栄先生	日本学術会議会員	農業
	五神 真先生	日本学術会議会員	未来社会像
	米田雅子先生	日本学術会議会員	自然災害
渡辺美代子 副会長	池坊専好先生	華道家元池坊 次期家元	生け花に学ぶ想定外を楽しむ精神
	坂田紀乃さん	福島県立福島高等学校2年生	高校生が東日本大震災の経験をもとに考える未来
	神尾陽子先生	日本学術会議会員	新型コロナウイルス感染拡大で顕著化してきたメンタルヘルスの課題
	Iris Wieczorek 先生	日本学術会議外国人アドバイザー	日独比較に見る新型コロナウイルス後の世界
	沖 大幹先生	日本学術会議連携会員	新型コロナウイルスとSDGs
	塩田佳代子先生	イェール大学感染症疫学博士課程4年	米国感染症対策・研究の仕組みと現状
	井野瀬久美恵先生	日本学術会議連携会員	歴史に学ぶ感染症と人類・環境の関わり
	喜連川 優先生	日本学術会議連携会員	新型コロナウイルス感染拡大が加速する情報通信社会
三成美保 副会長	落合恵美子先生	日本学術会議連携会員	「ステイホーム」が示す「ライフ優先社会」
武内和彦 副会長	秋葉澄伯先生	日本学術会議会員	新型コロナウイルスに対する国際学術社会の連携
	高村ゆかり先生	日本学術会議会員	新型コロナウイルス後の地球環境政策
	五箇公一先生	国立環境研究所生物・生態系環境研究センター生態リスク評価・対策研究室長	生物多様性から読み解く新型コロナウイルス後の世界



出版物のご案内

※お申込みは FAX にて 03-5410-1822

品切れを除く近刊の書籍については
Amazon からもお買い求めいただけます。



学術の動向

A4 判・本体価格 720 円＋税（メール便料込）
年間購読 8,383 円（税・メール便料込）
賛助会員は毎号 1 冊無料配布

- 20 年 5 月号 特集：自動車の自動運転の実現と社会デザイン
- 6 月号 特集：原子力防災
特集：現代日本の「働く仕組み」—社会学からのアプローチ
- 7 月号 特集：文理の協創によって社会的課題に立ち向かう総合工学
特集：学校教育と ESD、SDGs、フューチャー・アース

学術会議叢書

A5 判・本体価格 1,800 円＋税（送料別）
賛助会員は割引価格 1,782 円（税・送料込）

- | | |
|----------------------------|---|
| 2 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築 | 22 地殻災害の軽減と学術・教育 |
| 9 医療事故は予防できるか | 23 子どもの健康を育むために |
| 12 どこまで進んだ男女共同参画 | 24 〈いのち〉はいかに語りうるか？ |
| 16 食の安全を求めて | 25 IT・ビッグデータと薬学
—創薬・医薬品適正使用への活用— |
| 17 ダーウィンの世界 | 26 社会脳から心を探る
—自己と他者をつなぐ社会適応の脳内メカニズム— |
| 18 科学を文化に | |
| 20 放射能除染の土壌科学 | |
| 21 高レベル放射性廃棄物の
最終処分について | |

日学新書

新書判 本体価格 750 円＋税（送料別）
賛助会員は割引価格 743 円（税・送料込）

- 2 感覚器 [視覚と聴覚] と社会とのつながり



© 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。

今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。

公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3
TEL 03-3403-9788
03-5410-0242
FAX 03-5410-1822
URL <http://jssf86.org/>